

共同研究「“日常茶飯”—日本人は何を食べてきたか—」第3回 公開研究会 / 第177回 比較民俗定例研究会 共催

公開講演会

日本人は何を食べてきたか

—民俗考古学からのアプローチ

名久井文明 氏（物質文化研究所—芦舎 代表）

日時：2022年6月24日（金）10:50～12:20

会場：神奈川大学 横浜校舎8号館 8-34講堂

参加自由

（対面の講演会ですが、**オンライン**での参加も可能）

オンライン（Zoom）でご参加の方は、右のQRコードよりお申込みください。

IDとパスコードが自動返信メールにて送信されます。



主催 神奈川大学日本常民文化研究所・比較民俗研究会

本講演の要旨

縄紋時代草創期以降の遺跡から発掘された剥き身の「どんぐり」やその「へそ」、小さな孔が貫通した剥き身のクリなどは、当時の人々が食料を乾燥させてから備蓄していたことを物語る。それらの皮を除いた道具は臼、杵だが、その起源を遡ると旧石器時代の石器に行き着く。移動生活をしていた旧石器時代の人々が定住するようになった要因の一つは、食料の長期備蓄を可能にする乾燥技術を身に着けていたからであった可能性が高い。



貫通孔ある剥き身のクリ
(長野県お宮の森裏遺跡出土
縄紋時代草創期)
長野県上松町教育委員会所蔵



クリに糸を通して乾燥させる民俗事例
(岩手県宮古市小国)



旧石器時代の搗台石
(宮崎県牧内第一遺跡出土)
宮崎県埋蔵文化財センター所蔵